
集団暴行24時

ルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

集団暴行24時

【Nコード】

N2080B

【作者名】

ルト

【あらすじ】

フリーョーの方々に暴行される俺。ヘルプミー！

（前書き）

すみません、なんにも考えないで書きました。ノリで読み流してください（汗

俺は今、至極激しく後悔中だ。頬は痛いし腹も痛いし腕も腰もひどい事になっている。まあ骨までイツてないのは有り難いのだろうか。

こんな思考は決してノンキだからではない。絶体絶命過ぎて俺の頭が自然に現実逃避を始めちゃったただけだ。いやあ、困っちゃうなあもう。

「オラ、舐めてんのかテメエ」

「何とか言え、バーカ！」

うわ、腹蹴るなバカ吐きそうになるだろ。

えっと現在フリーヨ一な皆さんに囲まれて足蹴にされております私、当然のようにぶっ倒れて体を抱えて辛抱中。つーかちったあ加減しろよぶっ飛ばすぞオイ。

なんて、それができたら苦労しないつちゅーの。

とその時、一人突っ込みするなどして現実逃避絶好調な俺に救いの手が！

「お前達！ その弱いくせに集りの現場に乱入したまあ正義感確認めてやらなくも無いけどちよつとは後のこと考えようよ、ってモノスゴク言いたくなる善良な少年を放しなさい！」

うっわあ、ボロクソ言われたよママン！

そしていかにも重要人物っぽく逆光で顔が見えない状態で現われて、本来ならば正義感溢れる台詞に彩られるはずが被害者……つまり俺のココロをさらにボロボロに傷つける台詞を吐きながやってきたのは、

「俺のクラスメイトである三森加奈?! 何でこの状況で学校どころか町内最高の不思議ちゃんという呼び声高い三森が現われんの?! おい、みも……ぶへっ?!」

変な声を上げてしまったのは他でもなく三森が俺を蹴ったから。つて言うかお前この状況では俺の味方なんじゃないの?!

「不思議ちゃん言うなこの浅慮蛮勇! あと台詞が説明臭いわッ」

えええッ!? そんな理由で俺は暴行を受けたの?! しかもフリーョーの皆さんが彼女に便乗して笑いながら俺を蹴りつける。俺は仕方なくまた体を縮めて無抵抗のポーズをとった。

ていうかそうでないとメツチャ痛えし。

と、彼女は自分の現われた理由を思い出したらしくフリーョーの皆さんに勇ましく睨みを飛ばす。

「コラアンタ達、寄つてたかつてこんな貧弱浅慮蛮勇をいじめてみつともないと思わないわけ?」

俺の仮名に貧弱が増えた。みつともないのは完璧に俺じゃん。

彼女の正義感がほのかに感じられる台詞に反応して総勢十余名のフリーョー全員が彼女に向かって眼を飛ばした。

「思わないね。つーかお前オレらとやるわけ?」

「まさか、とんでもない。どうぞ、ご存分に痛め付けてください」

そう言って三森は退いた。つて言うか何?!

「なにを言って何事もなかったかのように立ち去ろうとしているん

でせうか三森サン?!」

「だ、だってこんなに居るなんて普通思わないし……。ていうかよくこの人数相手にケンカ売ったね」

「売ってない! 集りの現場にフミ込んだだけだし! しかもカミングアウトしちゃうとあれ別に正義感に駆られての行動じゃなくて空き缶踏んで滑ってつんのめって気が付いたら集りの渦中だったってオチだし!」

野次馬の俺を見る目の温度がすつ、と下がった。三森は汚いものでも見るような目で俺を睥睨し、野次馬の皆もばらばらと去っていく。

あれ、なに? 不良に襲われてるのは正義感に溢れるヒトじゃないと誰も助けないわけ? 俺だって巻き込まれるのやだなーと思う超野次馬気質だけどそれってそんなに軽蔑されるコト?

最後に残ったのは三森と不良一同と俺。紅一点の三森が俺に吐き捨てるように言った。

「……サイテー」

そして俺に背を向けて去っていく。

未だ何が起こったのか解らない俺に、不良の一人が解説してくれた。

「被害者を見る野次馬連中の存在が被害者にとって一番辛いからな、野次馬なのはいけねえコトだよ。次はちゃんと被害者を庇える人間になろうな」

「ああ、なるほど。って言うか、え? なんかフリヨ一の皆さんがスゲー優しい目つきで俺を労るように眺めてるんですけど? え、『なあボウズ、ここで会ったのも何かの縁だ。一杯やらねえか』だつて? いや俺未成年ですからうちゅうか、うわぁ何だこの優しさ

！　なんか身に染みてきちやったよ」

ああなんだろう、目尻からなんだか温かい液体が出てきた。ボク
病気かなあ。

斯くしてまた一人非行少年グループに少年が一人加わった。

（後書き）

ごめんなさい。これネタを思いついてから深く考えないで書いてたら、ネタを欠片も使っていない意味不明な作品になっちゃったんです。なんだそりゃ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2080b/>

集団暴行24時

2010年10月22日00時10分発行